

消 防 秋 田

題 字
初代会長 松 野 盛 吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋 田 県 消 防 協 会
会長 中 田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail: ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十八年全国統一防火標語
消しましろう
その火その時
その場所で

災害の防止と消防活動の安全を誓う

平成二八年度殉職消防職団員慰霊祭

平成二八年度(第八八回)殉職消防職・団員慰霊祭が、八月二三日(火)午前十一時から秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。

慰霊祭には、ご遺族の方一六名のほかご来賓、消防協会役員など五六

名が参列しました。

慰霊祭は、招魂などの神事後、中田潤秋田県消防協会会長が「招魂碑に合祀されております四五柱の御霊は、郷土の平安と地域住民の安心・安全を願い、我が身の危険をも顧みず勇猛果敢に懸命な消防防災活動を遂行するなか、尊くも職に殉じられました。不屈の消防魂をもつて最後まで消防人としての職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人の鑑であり、今も私達の心に生き続け、皆が等しく賛辞するところであります。われら消防人は、郷土愛護の精神と強固な団結力をもって、御霊のご遺訓を胸に、一致団結して厄災を防止し、地域住民の安全・安心のため最善の努力を尽くすことを誓う」と祭主祭文を奏上しました。



堀井啓一秋田県副知事はご来賓を代表して「殉職者の皆様が身をもつて示された崇高な精神と果敢な行動は、着実に本県消防人の間に受け継がれております。私たちは、皆様の御功績を心から讃え、とともに、その御遺志に応えるためにも、今後も消防、防災体制の強化に努め、県民が安全、安心に暮らせる社会の構築のために、全力で取り組むことを誓う」と慰霊のことばを述べられました。

公益財団法人日本消防協会会長と秋田県市長会長のメッセーじの紹介に続き、中田会長、ご遺族を代表して鹿角市の花ノ木八重子様、ご来賓の方々が御霊の冥福を祈り玉串を奉奠し、最後に送魂の神事が行われ、慰霊祭は滞りなく終えました。



第七〇期初任教育入校生 殉職消防組員招魂碑を清掃

秋田県消防学校

秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の一環として行われています。

今年も、八月二三日(火)開催の慰霊祭に先立ち、一九日(金)に六九名の入校生によって行われました。

清掃は、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを水をかけて洗い流しました。清掃後、参加者全員が「招魂碑」に向かい黙とうを捧げました。

入校生の皆さんありがとうございました。



第二回理事会

秋田県消防協会

一般財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、八月二三日(火)、平成二八年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、秋田市中通の「イヤタカ」で開催されました。主な協議事項、報告事項についてお知らせします。

【協議事項】

①日本消防協会定例表彰の上申

表彰旗、竿頭綬などの表彰(功績章及び精績章の女性枠各一名を含む)については、各支部内申のとり、特別表彰まといは小坂町消防団を上申することとしました。

なお、優良婦人消防隊(消防隊員)に関しては、支部からの内申はありませんでした。

②秋田県消防協会定例表彰

各支部から上申のとり授与することが承認されました。

- ・勤続章 五七五名
- ・功労章 二一名



・消防団員家族表彰

七家族(二一名)

③秋田県消防操法大会

○平成二九年度の大会から、これまでの平日開催を改め、土曜日に実施する。

○来年度の大会から「規律訓練」を披露する。

・男性の全国大会予選のない年、隔年に実施する。

・出場を希望する二隊ほどで実施する。

・操法終了後、表彰式までの間行う。

※実施方法など詳細は、今後検討。

④第二三回全国女性消防操法大会

○開催日及び開催場所の決定
平成二九年九月三〇日(土)
向浜運動広場駐車場

(こまちスタジアム駐車場)

○関連事業

・激励交流会

平成二九年九月二九日(金)

秋田キャッスルホテル

・防災展、物産展

操法大会会場内

○秋田県、秋田市に対する要請

関連事業開催への協力や、財政的協力について、知事、市長、秋田県消防長会に対して要請することを決議しました。

⑤消防団員の確保と活動の充実

消防団員の確保と活動の充実を図るため、一定の要件を満たした消防団員を雇用する事業所の事業税を軽減することを目的とし、現在、全国三つの県で制定している、「消防団の活動に協力する事業所等を応援する県税の特例に関する条例」を本県においても設置するよう、知事等に対して要望することを協議した結果、同条例を設置した場合の効果などを検討する必要があることから、今後、引き続き協議していくこととしました。

【報告事項】

①平成二八年度消防車両の交付要望

各消防団から五台の要望がありました。共済加入率や車両保有状況また、交付車両は全国で七七台となっていること等を考慮し、本県から二台要望することとしました。

②消防団防災学習・災害活動車の交付

平成二六年度より日本消防協会が交付しているもので、今年度本県に交付されることに伴い、各消防団に交付希望の照会をしたところ、四消防団から希望があり、正副会長会議において協議の結果、小坂町消防団を交付先として推薦することに決定しました。

③平成二八年度秋田県女性消防団ネットワーク会議

一月一五日(火)の開催を変更し、一月二九日(火)に開催することに決まりました。

会議の詳細については、後日連絡します。

④全県消防団長研修会

二月八日(木)に開催します。課題討議、意見交換のテーマを予め各消防団に照会し、その上で決定することとしました。

⑤消防団員研修

■第六期女性消防団員教育

一〇月二九日(土)～三〇日(日)

■場所…秋田県消防学校

■消防団員指導員研修

一月二六日(土)～二七日(日)

■場所…秋田県消防学校

■消防団員幹部教育指揮幹部科

分団指揮課程

平成二九年三月四日(土)～

五日(日)

■場所…秋田県消防学校

■消防団員基礎教育

平成二九年三月一日(土)～

一二日(日)

■場所…秋田県消防学校

※日本消防協会主催の研修は秋田県消防協会へ、消防大学校が開催する研修は県総合防災課にそれぞれお問い合わせ下さい。

第12回
消費
防団員
意見発表会(二)



近美
光夫

・美郷町消防団
・副分団長
・勤続三〇年
・会社員

各種消防団活動に積極的に参加し、現在は応急手当普及員としても活躍しており、上司や部下からの信頼も厚い。

「消防団員の結束力」

私が消防団に入団した当時は、コミュニケーションを取るためとよく飲み会をやっていました。これが昔からよく言われる飲み消防かと思いい、一番下のペイペイなので、文句を言わず参加していました。今で言う飲みにケーションです。私はアルコールが駄目なもので、正直苦痛でした。しかし、飲みにケーションがどれだけ大事なことが後の出来事で分かるようになりました。

それは、小型ポンプ操法の選手に選ばれてしまったことです。それまでは、何となく大会に参加していましたが、良いような感覚でいきましたが、選手ともなればそうもいきません。出場するからには負けたくありません。

ん。それから一ヶ月という長丁場をかけて練習しました。

最初は、待機線にすら集まらなかった自分が、何とか型になる操法が出来るようになり良かったです。結果は四位という一番悔しい順位で、次の年からはバ力になって練習に励みました。練習後の飲みにケーシヨンの大事さが分かった時です。結束力の始まりです。

しかし、市町村合併があり、各分団一チームの出場となり、当然のことながら強いチームが出ることになり、元ライバルチームのサポートに回ることになり、だんだん練習に足が遠のくようになりました。分団としての結束力の低下です。

しかし、若い団員が増えてくると、又活気が出てきました。この時を待つていたように、分団長の一声です。昔の垣根を取り払い皆で頑張つて行くべしとのことでした。そんなの無理だと自分の中で思つていました。

ところが若い団員には、昔のことなど全く関係なく選手になりたい意欲がすばらしく、分団で予選をやらなくてはならないほどでした。嬉しい悲鳴です。しかし困ったことに、一チームの出場だったのです。でも、団長が二チームまでは出場しても良いとのことでした。団員達の喜びは凄かったです。団長、ありがとうございます。結束力アップです。

選手になれなかった団員達は、ダメならいつでも交代してやるからなと言いながらサポートに回ってくれました。頼もしい団員に感謝です。

これによって、AチームとBチームが誕生しました。また、何度も支部大会や県大会を経験した先輩団員も、練習に駆付け、百人力の力を得ることが出来ました。練習中には笑い声が出るほど、和気あいあいな雰囲気ですが、いざ試技に入るとその集中力には、びっくりするほどのものがありました。

BチームはAチームの上になろうと狙っているし、Aチームは、そうはさせないと頑張っているし、お互い切磋琢磨しながらレベルをどんどん上げて行くのが分かりました。我が分団の結束力は素晴らしいものがありました。

結束力の結果は、県大会二連覇という輝かしい記録を打ち立てることが出来ました。全県優勝など、夢のまた夢が実現できて本当に嬉しかったです。

こんな消防バカの揃った分団の一員であることを誇りに思い、より一層消防活動に参加したいと思っています。



飯野 正和

- ・横手市平鹿消防団
- ・分団長
- ・勤続二八年
- ・農業

地区の中でもリーダー的な存在であり、諸先輩方が退職していく中、分団長の役職を任命され現在に至る。

「消防団のことあれこれ」

私にとって消防とは色々な思い出があります。

消防に携わった祖父や父のこと、自分が新米団員だった頃、そんな中、一つだけ忘れることのできない、辛い思い出があり、今でもハツキリと思い出すことができます。

それは、平成六年四月二〇日夜一時過ぎのことです。当時眠っていた私を妻が揺り起こし、「外で人の呼ぶ声がしている」と言うのです。人の声に時折車のクラクションの音が混じり、内容は聞き取れませんでした。何事かとカーテン越しに外を見ると、折柄の風に煽られて、燃え上がる炎が闇の中で揺らめき、「火事だ」と直感しました。

泣き出した子供を妻に託し、急いで玄関に掛けてあつた半纏をつかみ、闇の中を走りました。現場近くでは、二人のお母さん達がおろおろしていました。聞けば、この二人の旦那さんたちで消火を試みたが、火の勢いが強く、消せないと判断するや、軽トラに乗つて、火事ぶれをしているところでした。家の中で聞こえた音は、火事ぶれの音だったのでした。

私は、「一刻も早くかけないと」と考えましたが、時期は四月で用水路には水が乏しい状態です。そこで、最近上水道の整備により、消火栓が設備されたことを思い出し、使ったことは一度もありませんでしたが、「一刻も早く水を揚げる」思いだけで、夢中になってポンプ格納庫から、消火栓を往復し放水の準備をしました。そのうち、地元消防団の仲間も駆け付け、放水の準備も整い、私は消火栓のバルブを回し、水と空気の混じった音とともに、燃えさかる炎に向かって放水されたのを目の当たりにして、「やっと水が出た」という思いに駆られました。この時の時間は全然分かりませんが、ただ口の中の乾き、胃が締め付けられるような感じがしていました。

火も収まり、いくらかの冷静さを取り戻す中、火元の家族の方たちの姿がないことに気がつき、みんなで手分けをして探したのですが、どこにもいないのです。このお宅は高齢の母親と病気がちな長男、そして私より三つ年上の弟さんの三人家族ですが、弟さんは出火の際、隣の家に助けを求め、火を消そうとしていたはずなのです。この弟さんとは小さい頃、登下校の世話や色々な遊びを教わり、ずいぶんと面倒を見てもらい、心の優しい良い先輩でした。また、この弟さんは幼い頃、父親を出稼ぎ中の火災で亡くされて、それ以来母親を助け、病気がちな兄の世話をしながら懸命に生きてきた人です。そんな中、焼け落ちた家の北側の隅で、母親と長男が見分けもつかない状態でお互いに抱き合うような姿で発見されました。そして先輩は、玄関から居間を過ぎた廊下あたりで仰向けに倒れた状態で見つかりました。生前の姿、面影は一切なく、一家全員が亡くなる最悪の結末でした。

今朝からの合同現場検証に私も手伝いとして参加しました。足元は焼け焦げた木材や、ススと泥水でドロドロの状態、火事場の異臭があたり立ちこめておりました。片付けの最中、先輩を見つけたあたりで、私は人の手首を見つけました。手は開かれたままで、一部小指の先が欠けて炭のように真っ黒でした。拾い上げた時、気持ち悪いとか恐ろしいなどの思いはなく、ただその手を見て、「どんなに熱かったろう、どんなに苦しかったろう、どんなに家族を助けたかったのだろう」そんな思いで、あの燃えさかる炎の中に飛び込んだのだろうと想像すると、言葉にならない感情が湧き上がり涙が流れ、その場から動くことができませんでした。

火事は誰を問わず一飲みにして灰と化してしまします。身近な人を亡くし、改めて火の恐ろしさを思い知らされました。普段は身近な人、大切な人が火災で亡くなるなど想像出来ませんが、この火災を体験したことで、二度とこのような事が起きるはいけないと思いました。

火事はどんな小さな火種でも起こり得ます。タバコやたき火の不始末など、些細なことからも起こります。よく火事につける特効薬はないと言いますが、私は日ごろの地道な注意喚起や、火災予防に対する啓蒙活動が大切だと思います。

今平鹿消防団では、女性団員が男性消防団員とともに、毎月二・三集落を定期的に巡回し、声掛け、啓蒙活動を実践しています。このような地道な活動こそが地域・地区防災の安全安心に繋がるものだと思います。

また、最近の災害規模の大きさは驚かされます。わが横手市でも震度七以上が起けると何千人もの人が犠牲になると想定されております。特に積雪期の地震は、三千人以上の人々が亡くなり、倒壊する家も何千軒にもなると言われております。このことを踏まえ、消防団としてどのように対応するのか、冬の災害に備えた訓練も必要になってくると思います。

力強い消防としての準備をしつつ、美しい住みよいふるさと秋田で有り続けられることを願ひ発表いたします。



佐々木 勝

・湯沢市消防団
部長
・勤続二十七年
・会社員

フットワークの軽さと、団員の統率力、現場での判断力や行動力には、皆からも深い信頼を寄せられている。

「二回の遭難事故を体験して」

消防団に入って、火災・遭難・川流れなど様々な出来事を体験してきました。でもこの二件の遭難事故は、六〇世帯にも満たない集落で、自分が消防団に入ってから二人が山で亡くなる大変痛ましい事故でした。

一件目は、秋の彼岸がくる少し前、稲刈りをするまで戻ると言っ

奥山に出かけた人が昼になっても戻らず、車のある場所まで行ったが本人が見あたらない。このことを自分達が知ったのは夕食時、台風が近づいているというニュースを見ていた時間でした。それから準備をして山へは一時余りかかりました。その頃から雨風が強くなってきました。それから三日間夜通しで山を捜索するも見つからず、四日目は集落に帰り公民館に居ました。そこへ本人らしい人が虎毛沢の上流で遺体で見えられたので、身元確認のため集落から二人出てほしいとの連絡が入り、自分を含め三人行くことにしました。現地までは林道でそのあと沢を歩いて四時間は覚悟して下さいとのことでした。現場に到着し確認したところ、確かに本人でした。

もう一件は、五月の連休が終わろうとする頃、それも知らせが入ったのが暗くなってからでした。もう九〇歳になるうかというお婆さんが孫達に力タクリを、と近くの山へ出かけたが、昼になっても帰ってこない。家の人は屋過ぎから探していたらしい。四、五日捜索しましたが見つからず、捜索も打ち切りになりました。その後日もしてから見つかりました。見つかった場所は防災ヘリが飛んだ範囲よりも更に山を越え林道を横断して、通常では考えられないような所で見つかったと聞きました。

この二件の遭難事故、遭難者を自

分達の手で見つけることはできませんでした。何か魔物でもいるのではと思いました。火災と同じくもう少し早い対応が出来たのではと悔やみました。また、日ごろからのコミュニケーションの在り方までも考えさせられました。

二回目の捜索で林道に入って気付いた事は、一回目の捜索時のあの台風風の傷跡がすっかり片付けられていた事でした。倒木、流れてきた土砂、丸太で作られた橋、しっかりと整備されていました。いつの間にかこんな奥まで、こんな大変な事を素早くできる組織・人達がいる事に感動しました。それと、身元確認で行った三人は、レスキュー隊の皆さんに多大な協力が出来たと思います。沢の中を遺体に乗せたボートをまっすぐに流す時、丸太の橋の上を渡る時も「助かります。ありがとうございます。」と隊長さんにお礼を言われました。実は朝に集まった時、私は「あなたは遠慮した方がいいのでは？」と言われていました。それは多分普通の長靴だったからだと思います。スパイクの長靴だから沢の中をしつかり歩けるからというところではないと思います。スパイクだと岩の上で滑らないと思いますが、私は沢に入る前に準備していた紐でしつかりと足と足首を縛りました。あとは沢の中をどう歩くかだと思います。

このような形で協力出来た事も消

防団に入っていたからこそ出来た事。また消防団に入っている事で当てにされる事も感じています。

このような体験、経験を次の団員にも伝えていくことも大事なことだと思っています。

終わりになりますが、昔から言われてきた言葉に日ごろから用心しておかなければなりません。何の用心かと言いますと、「地震・雷・火事・おやじ・台風も」それよりおつかねな「バカ息子」。



第70期 初任教 実務研修を

秋田県消防学校
終えて



大野 真
秋田市消防本部

学校生活中、最後の実務研修ということで、一日の流れや業務内容等少しでも多くのことを知り、配属されるまでの残り約一ヶ月の間に、一人前の消防士に近づけるようになりたいと思います。

朝の車両点検等も一回目の研修では何をしているのか分かりませんでしたが、今回の研修では先輩方が何をしているのか理解でき、配属後の役割も教えてもらいました。午前と午後の訓練では、結索や三連梯子とホースの延長等を行い、現場での活動要領を含め、詳しく説明してもらったので残りの学校生活の訓練でも、常に現場でのことをイメージしていきたいと思います。

今回の研修では配属されてからのことを多く学べたので、残り約一ヶ月の学校生活の中で、現場で力になれるように目的を持ち、一日一日を大切に過ごしたいと思っています。



児玉 儀仁
能代山本広域市町
村圏組合消防本部

今回の実務研修では、出場が二回あり、一回目は救急救助出場、二回目はくず焼き調査出場でした。一回目の救助事案では、傷病者が脱出していたため、途中帰署しました。しかし、出場前に資器材点検をしていたため、投光器やエンジンカッター等が全て車両外に出ていたので、慌てて収納し、出場準備に取りかかりました。三年間の実務経験の中で初めての体験だったので、気持ちが焦り、防火衣の着装が遅くなってしまいました。とても良い経験ができたと思います。二回目の出場では、黒い煙が上がっているのを確認して下さいという通報で出場しました。すると、煙が三箇所も見え、現場に行くと三箇所ともメロンの栽培で使用するビニール製のチューブを焼却していました。幸い関係者がいたため、消火してもらい、大事には至りませんでした。くず焼きが増える、火災の増加につながりかねないので、新聞や広報紙等で注意喚起を行わなければならないと思いました。



進藤 弘将
大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部

今回は、二回目の宿泊での実務研修であった。今日は申し送りと勤務交替を終えた後に、署長から訓辞をいただいた。署長の訓辞を聞き、今一度しっかりと初任教育を受けているこの時間を有効活用し、しっかりと基礎となる知識や技術を身に付けたいと思った。その後、車両・資器材点検と消防活動応用訓練を行った。消防活動応用訓練では、二又分岐の両方から放水をして片方の放水を止めた時に反動力がどの位かかるのかを体験した。昼食後、予防業務について話を聞いたが、消防用設備についてであった。また午後の訓練では、屋内検索と応急はしご救出を行った。応急はしご救出は学校で最近やったため、しっかりとやることができたと思う。

今回の実務研修を終えて、屋内検索には色々なやり方があることを知ったが、やはり学校で学んでいることがこれからの実務を行っていく中の基礎になることを実感したので、しっかりと学びたいと思った。



大川 翔平
北秋田市消防本部

八月八日、二回目の当務実務研修のため、久しぶりに所属で勤務した。朝は各課の申し送りをした後、通常点検があつたが、普段学校で何回もやっている分、変にかたくなることもなくスムーズにこなすことが出来た。その後、車両点検を実施し、午前中にドクターヘリの要請があつたため、支援活動の見学に同行させてもらった。午後は乾燥していたホースの収納や事務の仕事を手伝った後、ホースの耐圧試験を行った。ついでに二又分岐を活用した放水訓練を行った。五〇メートルのホースに水が載っている状態から、二又分岐で二線放水するために、ホースクランプと媒介金具を使用した。簡単な想定ではあつたが、スムーズに動作出来たので良かった。その後、応急はしごの訓練も行っていた。とても充実した一日となった。

今回の実務研修を終えて、残りの学校生活もあと一ヶ月、入校のため長期不在で職場に迷惑をかけている分、一ヶ月後には少しでも貢献できる職員になって帰らなければいけないと感じた。



遠藤 知晃
由利本荘市消防本部

今回、二回目の実務研修では、救助資器材点検、取り扱い要領、火災防ぎょ訓練を行いました。午前中の救助資器材点検、取り扱い要領では、スプレッター、カッター、エンジンカッター、エアマイティ、コンビツール、ラムシリンダーを使用しました。ほとんどは以前の実務研修や消防学校での訓練で使ったものでしたが、コンビツールとラムシリンダーは今回初めて使いました。特にラムシリンダーに関しては、見るのも触るのも初めてでしたので、とても良い機会となり、勉強になりました。いずれこのような資器材も自分で使えるようになってはいけないので、もっと様々な資器材に慣れ、早く使えるようになりたいと感じました。

午後からの火災防ぎょ訓練では、ホースカー、ホースバックを使い、ホースを延長し、そこから屋内侵入し、ガンタイプノズルを使い鎮圧する訓練を行いました。ガンタイプノズル自体使うのが初めてで、最初は使い方に戸惑いましたが、最終的にはうまく使えましたし、とび口の吊り上げもちゃんと行えました。



金澤 直大
鹿角広域行政
組合消防本部

今回の実務研修では、前回の実務研修よりも学ぶことが多かったのではないかと感じた。それと同時に、プロの消防士として現場で活躍する上で、自分なりに足りないことも沢山あった。課題も見つけることができ、とても充実した一日だった。

私に足りないと感じた部分は沢山あるが、圧倒的に知識、経験が足りない。私自身も現場に同行させていただいたが、現場で自分が何をしたら良いのか、いまいちはずきりイメージすることが出来なかった。これからの消防学校の訓練で、現場活動の基本を身に付けていきたい。主な課題の一つは、災害モードへの切り替えである。先輩方は、指令が流れると瞬時に災害モードに切り替え、帰署するまで集中している。自分は災害モードへの切り替えも遅いし、集中力も持続しない。それらの部分をもっと意識してこれからの訓練に取り組んでいきたい。

初任科教育も残すところ一ヶ月である。まだまだ今のままでは戦力にならない。課題が沢山ありすぎる、少しでも戦力になれるように、課題を一つ一つクリアしていきたい。

秋田県内各消防団の定年調査

H28.4.1 現在 秋田県総合防災課

	項 目 消防団名	定 年 年 齢							備 考
		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	
1	鹿角市消防団	なし	67	65	65	65	65	65	
2	小坂町消防団	なし							
3	大館市消防団	なし	なし	65	65	65	65	65	
4	北秋田市消防団	なし	なし	65	65	65	65	65	
5	上小阿仁村消防団	65	65	65	65	65	65	65	
6	能代市消防団	なし	なし	65	65	65	65	65	機能別は定年なし
7	三種町消防団	なし	なし	65	65	65	65	65	
8	八峰町消防団	なし							
9	藤里町消防団	なし	なし	60	60	役職なし	60	60	
10	男鹿市消防団	70	70	70	70	70	70	70	※ 1
11	潟上市消防団	なし							※ 2
12	五城目町消防団	なし	なし	65	65	65	65	65	
13	八郎潟町消防団	なし	なし	65	65	65	65	65	
14	井川町消防団	なし	なし	63	63	60	60	60	
15	大潟村消防団	なし							
16	秋田市消防団	65	65	65	65	65	65	65	機能別は70才
17	由利本荘市消防団	なし							機能別は70才
18	にかほ市消防団	なし							
19	大仙市消防団	70	70	70	70	70	70	70	
20	仙北市消防団	70	70	70	70	70	70	70	
21	美郷町消防団	70	70	70	70	65	65	65	
22	横手市各消防団	70	70	65	65	65	65	65	
23	湯沢市消防団	70	70	70	65	65	65	65	
24	羽後町消防団	68	68	65	65	60	60	60	
25	東成瀬村消防団	なし							

※1 男鹿市消防団員退職勧奨取扱要綱にて規定

※2 内規で定年を分団長以下70歳と規定しているが、拘束するものではない

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高 義 商 会

(営 業 種 目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 タ カ ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営 業 種 目)

日本機械自動車ポンプ | キンバイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

支部情報アラカルト

由利本荘にかほ支部

移動研修

由利本荘にかほ支部は、周防支部長以下四五名(事務局を含む)の役員で構成されており、支部の主な事業としては、消防操法大会を始め、新規採用消防団員養成講習会、幹部教養研修、移動研修等を実施しております。

この事業のうち、平成二八年六月一八日に移動研修を実施しました。

研修先は、秋田石油備蓄株式会社男鹿事業所で、基地

には世界最大級の地中式タンク二基と地上式タンク4基、約三七〇万キロリットルの原油が貯蔵されており、社員の方より基地の概要、管理する上での保安、防災等に対する設備、日ごろの心構え等についてバス内から見学、説明を受けました。



次に、基地内に保管されている大容量泡放射システム、運転防災管理センター内の大型化学高所放水車、泡原液搬送車、化学車二台を見学させていただき、特に大型化学高所放水車については配管が見える仕様だったことから、ポンプ車の構造等について興味を持って質問していました。残念ながら、深さ約五〇メートルある地中式タンクの内部は雨模様で見学することができませんでした。

支部の大きな

危険物施設としては、由利本荘市に石油資源開発株式会社由利原鉱場中央基地があり、数基の屋外タンク貯蔵所があります。施設の規模は違いますが、今回施設を視察したことで、今後の防災に対する知識、消防幹部として日ごろの災害に対する心構えを再認識することができました。

〔情報提供〓由利本荘にかほ支部〕



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成28年		平成27年			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建 物	19	140	16	136	211	3	4
林 野	7	29	3	32	34	4	- 3
車 輛	3	23	6	32	45	- 3	- 9
その他	5	44	14	75	83	- 9	-31
合 計	34	236	39	275	373	- 5	-39
死者数	1	15	0	31	40	1	-16
負傷者数	3	37	5	61	86	- 2	-24

消防半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバウラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社
株式会社

能代消防センター
協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651